

資料編

1 参考文献

第1章・第2章

- 井野辺茂雄、1928：『富士の信仰』，古今書院，454.
- 足立鍬太郎、1930：富士山頂三島嶽南経塚遺物中の経筒と経巻について．『考古学雑誌』，20巻12号，51-55.
- 津屋弘達、1938：富士火山の地質学的並びに岩石学的研究（I）小御嶽の構造．『地震研彙報』，16，452-469.
- 武者金吉、1943：『増訂大日本地震史料』，2，文部省震災予防評議会，754.
- 御殿場市文化財審議会、1963：『富士宝永の噴火と長坂遺跡』〈文化財のしおり第4集〉，23.
- 東京大学地震研究所、1983：『新収日本地震史料』，3別巻，590.
- 宮地直道、1984：富士火山1707年火砕物の降下に及ぼした風の影響．『火山』，29，17-30.
- 藤井敏嗣・由井将雄、1985：愛鷹火山の岩石学的特徴．『月刊地球』，7，622-627.
- 宮地直道・能城修一・南木睦彦、1985：富士火山1707年降下火砕物層直下の埋没林の復元．第四紀研究．23，245-262.
- 遠藤秀男、1987：浅間信仰と浅間神社の成立．『富士宮市史』，上，269-310.
- 小林一葵、1987：富士修験満道．平野榮次編『富士浅間信仰』〈民俗宗教史叢書16〉，雄山閣，33-59.
- 平野榮次、1987：吉田御師の成立と近世におけるその活動．平野榮次編『富士浅間信仰』〈民俗宗教史叢書16〉，雄山閣，213-252.
- 宮地直道、1988：新富士火山の活動史．地質学雑誌，94，433-452.
- 三橋 健、1991：富士信仰．『国史大辞典』，12，吉川弘文館，141-143.
- 三宅敏之、1991：富士山頂経塚．『国史大辞典』，12，吉川弘文館，140.
- Ishida, M、1992：Geometry and relative motion of the Philippine Sea Plate and Pacific Plate beneath the Kanto-Tokai district, Japan. Journal of Geophysical Research, 97, 489-513.
- 諏訪 彰、1992：富士山を診断する－素性を探る－．『富士山』，13-33，同文書院.
- 都司嘉宣、1992：『富士山の噴火－万葉集から現代まで－』，築地書館，259.
- Seno, T. , Stein, S. , and Gripp, A. E. 1993： A model for the motion of the Philippine Sea plate consistent with NUVEL-1 and geological data. J. Geophys. Res. , 89, 17941-17948.
- 静岡県、1994：『静岡県史』，通史編1〈原始・古代〉．1205.
- 松尾美恵子、1996：小山町域における「宝永の砂降り」記録．『小山町の歴史』，9，199-214.
- 静岡県、1997：『静岡県史』，通史2〈中世〉．1185.
- 小山真人、1998a：歴史時代の富士山噴火史の再検討．『火山』，43，323-347.
- 小山真人、1998b：噴火堆積物と古記録からみた延暦19～21年(800～802)富士山噴火－古代東海道は富士山の北麓を
通っていたか？－．『火山』，43，349-371.
- 小山町、1998：『小山町史』，7〈近世通史編〉，1040.
- 鳥居和郎、1999：戦国時代における参詣活動について－相・甲間の政治的状況との関連から－．地方史研究協議会編
『都市・近郊の信仰と遊山・観光』，雄山閣，91-113.
- 高橋正樹、2000：富士火山のマグマ供給システムとテクトニクス場－ミニ拡大海嶺モデル－．『月刊地球』，22，517-523.
- 旭日丘区史編纂委員会(2001)：『山中湖村旭日丘区制施行五十年史－旭日丘のあゆみ－』，山中湖村旭日丘区，512.
- 小山真人・西山昭仁・井上公夫・今村隆正・花岡正明、2001：富士山宝永噴火の推移を記録する良質史料「伊東志摩
守日記」．『歴史地震』，17，80-88.
- 宇井忠英・荒井健一・吉本充宏・吉田真理夫・和田穰隆・服部伊久男・米田弘義、2002：江戸市内に降下し保存され

- ていた富士宝永噴火初日の火山灰. 『火山』, 47, 87-93.
- 鶴川元雄・中禮正明, 2002: 『富士を知る－特集・富士山災害予測図－』, 集英社, 162-172.
- 鶴川元雄・藤田英輔, 2002: 富士山の低周波地震と傾斜変動. 『火山噴火予知連絡会会報』, 79, 95-100.
- 小山真人, 2002a: 火山で生じる異常現象と近隣地域で起きる大地震の関連性－その事例とメカニズムに関するレビュー－. 『地学雑誌』, 111, 222-232.
- 小山真人, 2002b: 史料にもとづく富士山宝永噴火の推移. 『月刊地球』, 24, 609-616.
- 小山真人・西山昭仁・角谷ひとみ・井上公夫・笹原克夫・安養寺信夫(2002): 史料にもとづく宝永4年(1707年)富士山噴火の推移. 地球惑星関連学会2002年合同大会, V032-P025.
- 中禮正明・林 豊・瀧山弘明・小山真人・藤井敏嗣, 2002: 富士山宝永噴火マグマ貫入のモデルとシミュレーション. 地球惑星関連学会2002年合同大会, V032-P027.
- 林 豊・小山真人, 2002: 宝永四年富士山噴火に先立って発生した地震の規模の推定. 『歴史地震』, 18, 127-132.
- 藤井敏嗣・吉本充宏・安田 敦, 2002: 富士火山の次の噴火を考える－宝永噴火の位置づけ－. 『月刊地球』, 24, 617-621.
- 藤田浩司・鈴木雄介・吉野徳康・北川淳一・小山真人・宮地直道・下山利浩・安養寺信夫, 2002: 富士山北斜面において剣丸尾第1、第2溶岩を流出した噴火とその堆積物. 地球惑星科学関連合同学会2002年度合同学会予稿集, V032-P021.
- 宮地直道・小山真人, 2002: 富士山宝永噴火の噴出率の推移. 地球惑星科学関連合同学会2002年度合同学会予稿集, V032-P024.
- 小山真人, 2003: 富士山の噴火史とハザードマップの意義. 読売新聞特別取材班ほか編『活火山富士－大自然の恵みと災害－』. 中公公論新社, 142-155.
- 小山真人・西山昭仁・井上公夫・角谷ひとみ・富田陽子, 2003: 富士山宝永噴火の降灰域縁辺における状況推移を記録する良質史料「伊能景利日記」と伊能景利採取標本. 『歴史地震』, 19, 38-46.
- 鈴木雄介・千葉達朗・荒井健一・藤井紀綱・清宮大輔・小山真人・宮地直道・吉本充宏・富田陽子・小泉市朗・中島幸信, 2003: 航空レーザー計測結果にもとづく富士山貞観噴火の溶岩流出過程. 地球惑星関連学会2003年合同大会予稿集. V055-P015.
- 西岡芳文, 2003: 中世の富士山－「富士縁起」の古層をさぐる－. 峰岸純夫編, 『日本中世史の再発見』, 吉川弘文館, 108-131.
- 原 祐一, 2003: 東京大学本郷構内の遺跡 薬学部系総合研究棟地点(2002年度)富士山宝永火山灰の出土状況. 第4回考古科学シンポジウム, 67-71.
- 藤井敏嗣・宮地直道・吉本充宏・安田 敦・金子隆之, 2003: 旧加賀屋敷における宝永火山灰の発見とその火山学的意義. 第4回考古科学シンポジウム, 77-82.
- 高田 亮, 2004: 割れ目噴火と岩脈が語る噴火史. 産業技術総合研究所地質調査総合センター編『産総研シリーズ火山－噴火に挑む－』, 233-249.
- 富士山ハザードマップ検討委員会, 2004: 『富士山ハザードマップ検討委員会報告書』, 240.
- 宮地直道・尾口俊一, 2004: 富士火山1707年降下火砕物の付着水溶性成分. 日本大学文理学部自然科学研究所「研究紀要」, 39, 199-204.
- 吉本充宏・金子隆之・嶋野岳人・安田 敦・中田節也・藤井敏嗣, 2004: 掘削試料から見た富士山の火山体形成史. 『月刊地球』, 48, 89-94.
- 斎藤慎一, 2005: 『戦国時代の終焉』, 中央公論新社, 234.

第3章

- 伴野京治, 1962: 『宝永噴火と北駿の文書』(謄写版), 288.
- 芹沢嘉博, 1975: 富士山噴火の被害とその再開発－小田原藩御厨領を中心に－. 『小田原地方史研究』, 7, 40-52.
- 御殿場市, 1981: 『御殿場市史』, 8〈通史編上〉, 791.
- 塚本 学, 1983: 『生類をめぐる政治』, 平凡社, 357.

- 大友一雄、1994：「富士山砂降り訴願記録」解題。『日本農書全集』，66，農山漁村文化協会，71-82。
- 若林淳之、1994：自然災害誌の方法—元禄・宝永大地震と宝永噴火の場合—。『静岡県史研究』，10，67-97。
- 小山町、1998：『小山町史』，7〈近世通史編〉，1040。
- 小田原市、1999：『小田原市史』，通史編近世，1030。
- 開成町、1999：『開成町史』，通史編，794。
- 南足柄市、1999：『南足柄市史』，6〈通史編I〉，874。
- 大井町、2001：『大井町史』，通史編，998。
- 新人物往来社、2002：『別冊歴史読本 図説富士山百科』，新人物往来社，142。
- 永原慶二、2002：『富士山宝永大爆発』，集英社，267。
- 国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所、2003：『富士山宝永噴火と土砂災害』，142。

第4章

- 和歌森太郎、1971：近世末期の修験と富士講。『日本歴史』，272，126-131。
- 酒井茂男、1975：『酒匂川(特集号)—酒匂川の沿革と氾濫の歴史—』，酒匂川水系保全協議会，170。
- 芹沢嘉博、1975：富士山噴火の被害とその再開発—小田原藩御厨領を中心に—。『小田原地方史研究』，7，40-52。
- 笠谷和比古、1976：宝永5年の「国役普請」をめぐって—幕藩制政治史研究序説—。『日本史研究』，162，49-69。
- 平野榮次、1980：富士と民俗—富士塚をめぐって—。『月刊文化財』，202，28-35。
- 宮崎ふみ子、1980：不二道の歴史観—食行身禄と参行六王の教典を中心に—。『現代宗教』，2，春秋社，121-140。
- 岩科小一郎、1981：富士講。『まつり』，38，まつり同好会，55-88。
- 神奈川県、1983：『神奈川県史』，通史編3〈近世(2)〉，1252。
- 大谷貞夫、1986：『近世日本治水史の研究』，雄山閣出版，405。
- 大谷忠雄、1987：南武蔵・相模の富士塚。平野榮次編『富士浅間信仰』〈民俗宗教史叢書16〉，雄山閣，111-133。
- 岡田 博、1987：実行教と不二道孝心講。平野榮次編『富士浅間信仰』〈民俗宗教史叢書16〉，雄山閣，283-311。
- 小山町、1991：『小山町史』，9〈民俗編〉，1108。
- 南足柄市、1993：『南足柄市史』，3〈資料編近世(2)〉，792。
- 南足柄市郷土資料館、1993：『富士山の噴火と酒匂川』，62。
- 瀬戸長治、1994：文命堤碑を考える。『市史研究 あしがら』，6，13-34。
- 岩橋清美、1996：近世後期における儀礼の変容と地域—相模国足柄上郡文命宮祭礼を中心に—。『市史研究 あしがら』，8，1-22。
- 松尾美恵子、1996：小山町域における「宝永の砂降り」記録。『小山町の歴史』，9，199-214。
- 小山町、1998：『小山町史』，7〈近世通史編〉，1040。
- 小田原市、1999：『小田原市史』，通史編近世，1030。
- 開成町、1999：『開成町史』，通史編，794。
- 南足柄市、1999：『南足柄市史』，6〈通史編I〉，874。
- 裾野市、2000：裾野市史 第8巻 通史編『裾野市史』，8〈通史編I〉，1144。
- 大井町、2001：『大井町史』，通史編，998。
- 永原慶二、2002：『富士山宝永大爆発』，集英社，267。
- 国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所、2003：『富士山宝永噴火と土砂災害』，142。
- 松尾美恵子、2003：富士山噴火と浅間山噴火。『日本の時代史』，第16巻，吉川弘文館，147-176。
- 安藤文一、2004：川村城跡史跡整備に伴う平成15年度試掘調査略報—特に郭部(平場)を中心とした成果について—。『足柄乃文化』，31，48-67。

第5章

- 開成町、1965：『酒匂川洪水と防備の歴史』，21。
- 本多秀雄、1972：『神奈川県酒匂川における災害と水利開発の歴史的研究』，32。

- 町田市、1974：『町田市史』，上，1524.
- 酒井茂男、1975：『酒匂川(特集号)－酒匂川の沿革と氾濫の歴史－』，酒匂川水系保全協議会，170.
- 芹沢嘉博、1975：富士山噴火の被害とその再開発－小田原藩御厨領を中心に－. 『小田原地方史研究』，7，40-52.
- 中野敬次郎、1977：酒匂川修堤物語－九十間堤と曼荼羅土手－. 『酒匂川』，12，13-16.
- 松田町、1977：『まつだの歴史』，上，387.
- 中野敬次郎、1978：『近世小田原ものがたり』，名著出版，283.
- 御殿場市、1981：『御殿場市史』，8〈通史編上〉，791.
- 下鶴大輔、1981：『富士山の活動史－Disaster Mapと災害強化－. 噴火災害の特質とHazard Mapの作成およびそれによる噴火災害の予測の研究〈文部省科研費自然災害特別研究成果報告書，No. A-56-1，研究代表者：下鶴大輔〉』，88-97.
- 瀬戸崎雄、1982：『金井島村の研究』，180.
- 神奈川県、1983：『神奈川県史』，通史編3〈近世(2)〉，1252.
- 宮地直道、1984：富士火山1707年火砕物の降下に及ぼした風の影響. 『火山』〈第2集〉，29巻1号，17-30.
- 宮地直道・能城修一・南木睦彦、1985：富士火山1707年火砕物直下の埋没林の復原. 『第四紀研究』，23，245-262.
- 青木貞男、1988：酒匂川右岸の霞堤考察－その九十間堤と祖師堂－. 『開成町史研究』，2，48-59.
- 大友一雄、1988：享保期酒匂川治水と田中休愚. 川崎市文化財調査集報，23，20-30.
- 秦野市、1988：『秦野市史』，通史2〈近世〉，713.
- 菊地万雄、1989：富士山の宝永噴火. 『富士山噴火史』，静岡県，75-159.
- 岡 秀一、1992：富士山西斜面における樹木限界の群落構造とその動態. 『地理学評論』，65-A，8，587-602
- 中根 賢、1992：町奉行大岡忠相の小田原領支配－享保10～17年の酒匂川治水を中心に－. 『法政大学大学院紀要』，29，262-288.
- 関口康弘、1993：宝永の砂降以後の酒匂川氾濫について－大口水下六か村農民たちの動向を中心に－. 『市史研究 あしがら』，5，37-47.
- 南足柄市郷土資料館、1993：『富士山の噴火と酒匂川』，62.
- 二宮町、1994：『二宮町史』，通史編，1083.
- 若林淳之、1994：自然災害誌の方法－元禄・宝永大地震と宝永噴火の場合－. 『静岡県史研究』，10，67-97.
- 瀬戸長治、1994：文命堤碑を考える. 『市史研究 あしがら』，6，13-34.
- 岩橋清美、1996：近世後期における儀礼の変容と地域－相模国足柄上郡文命宮祭礼を中心に－. 『市史研究 あしがら』，8，1-22.
- 静岡県、1996：『静岡県史』，通史編3〈近世1〉，1208.
- 中根 賢、1996：町奉行大岡忠相の地方御用とその特質－享保17年～延享5年の酒匂川治水を中心に－. 『幕藩制社会の地域的展開』，雄山閣出版，77-122.
- 青柳周一、1997：参詣の道・生計の道－小田原藩地域政策と富士山参詣者－. 『地方史研究』，268，48-67.
- 青柳周一、1998：登山道と地域社会－近世後期須山口富士登山道復興家庭のスケッチ－. 『文化』，61巻3・4号，38-58.
- 小山町、1998：『小山町史』，7〈近世通史編〉，1040.
- 小田原市、1999：『小田原市史』，通史編近世，1030.
- 開成町、1999：『開成町史』，通史編，794.
- 南足柄市、1999：『南足柄市史』，6〈通史編I〉，874.
- 山北町町史編さん室、1999：『江戸時代がみえる やまきたの絵図』，35.
- 井上公夫、2000：関東地震. 中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳治編『地震砂防』，古今書院，60-70.
- 裾野市、2000：『裾野市史』，8〈通史編I〉，1144.
- 井上公夫、2001：関東地震(1923)と土砂災害. 『月刊地球』，23巻2号，147-154.
- 大井町、2001：『大井町史』，通史編，998.
- 菊池邦彦、2001：富士山信仰における須山口の位置. 『裾野市史研究』，13，47-90.
- 永原慶二、2002：『富士山宝永大爆発』，集英社，267.

- 角谷ひとみ・井上公夫・小山真人・富田陽子、2002：富士山宝永噴火(1707)後の土砂災害。『歴史地震』，18，133-147.
- 南 哲行・花岡正明・中村一郎・安養寺信夫・井上公夫・角谷ひとみ、2002：富士山宝永噴火(1707)後の土砂災害①・②。砂防学会研究発表会概要集，20-21・252-253.
- 国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所、2003：『富士山宝永噴火と土砂災害』，142.
- 小山真人・松尾美恵子・井上公夫、2003：富士山宝永噴火。国立歴史民俗博物館企画展示図録『ドキュメント災害史1703-2003』，60-72
- 伊藤和明監修・荒巻重雄・小山真人・勝井義雄・中川光弘・井上公夫・井口正人・池谷 浩、2004：『世界の富士山』。山海堂，72.
- 井上公夫、2004：神奈川県山北町における元禄地震(1703)と富士山宝永噴火(1707)による土砂災害の分布とその復興過程－神奈川県山北町皆瀬川地区を例として－。平成16年度砂防学会研究発表会概要集，78-79
- 井上公夫、2005：元禄地震(1703)と富士山宝永噴火(1707)による土砂災害と復興過程－神奈川県山北町における最近の史料学・考古学的成果による再検討－。『歴史地震』，20，247-255.
- 下重 清、2005：富士山宝永噴火後における二次災害の分析視角，『小田原地方史研究』，23，15-28.

2 古文書記録より整理した堆積深

地点No.	現在の市町村	字(旧村名)	降砂量	(換算値 下限)	(換算値 上限)	被害状況など詳細	文献 No.	引用箇所	原史料
1	小山町	須走村	一丈	300		「高札場砂にて埋まり、礼覆の屋根ばかり少し見ゆる。」 「浅間御社鳥居半分過は砂にて埋まり隨身門屋根ばかり少し見え、幣殿まで埋るといへども潰れず、名主基太夫土蔵三つまで焼ける。」	79	近世小田原ものがたり	富士山噴火し小田原領内砂降る被害見分の次第
1	小山町	須走村	一丈	300		小山町以外の駿河国内では、御殿場村より南は三〜四尺、三島あたりは降らず、竹之下村(小山町)より北東の村々は四〜五尺ほどになった。	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(墟下村名主記録帳)
1	小山町	須走村	九尺より一丈二尺	270	360		113	下鶴大輔	
2	小山町	生土村	五尺六寸	168			117	大角留吉	
2	小山町	生土村	三尺五寸	105			27	御殿場市史	(御殿場市史4p.87-96)
3	小山町	桑木村	二尺	60			113	下鶴大輔	
4	小山町	菅沼村上	三尺四・五寸	102	105		113	下鶴大輔	
5	小山町	菅沼村下	三尺六寸	108			113	下鶴大輔	
6	小山町	藤曲村	三尺六寸	108			113	下鶴大輔	
6	小山町	藤曲村	五尺	150			24	開成町史 通史	
7	小山町	湯船村	三尺六寸	108			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
8	小山町	小山村	三尺六寸	108			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
8	小山町	小山村	五尺	150			24	開成町史 通史編	
9	小山町	所領村	三尺五寸	105			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
9	小山町	所領村	四尺六寸	138			113	下鶴大輔	
9	小山町	所領村	四尺五寸	135			86	金井島村の研究	
10	小山町	吉久保村	四尺五寸	135			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
10	小山町	吉久保村	三尺四寸	102			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-96)
11	小山町	竹之下村	二尺五寸	75			113	下鶴大輔	
11	小山町	竹之下村	五・六尺	150	180	小屋少々潰る。	79	近世小田原ものがたり	
12	小山町	下古城村	三尺から三尺二寸	90			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-96)
13	小山町	下小林村	三尺八寸	114			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
13	小山町	下小林村	五尺	150			86	金井島村の研究	
14	小山町	用沢村	四尺五寸	135			24	開成町史 通史	
14	小山町	用沢村	四尺四寸	132			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
15	小山町	棚頭村	四尺四寸	132			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
15	小山町	棚頭村	四尺七寸	141			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
16	小山町	阿多野新田	三尺九寸	119			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
16	小山町	阿多野新田	三尺六寸	108			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
17	小山町	上野新田	四尺一寸から四尺三寸	123	129		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-96)
18	小山町	上野村	四尺から四尺三寸	120	129		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-96)
18	小山町	上野村	四尺三寸	129			50	秦野市史	
19	小山町	大胡田村	三尺二寸	96			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
20	小山町	柳島村	三尺六寸	108			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
20	小山町	柳島村	三尺五寸	105			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
21	小山町	中島村	三尺六寸	108			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
21	小山町	中島村	五尺六寸	168			24	開成町史 通史	
22	小山町	新柴村	二尺四寸	72			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
23	小山町	大御神村	五尺五寸	165			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
23	小山町	大御神村	五尺	150			50	秦野市史	
24	小山町	上古城村	三尺五寸	165			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
25	小山町	生土村	五尺六寸	168			24	開成町史 通史	

26	小山町	芝怒田村	六、七尺	180	210	潰れ家十一軒あり。	79	近世小田原ものがたり	
27	小山町	中日向村	四尺五寸	135			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
28	小山町	菅沼村	五尺	150			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
29	御殿場市	深沢村	一尺九寸	57			27	御殿場市史3	宝永四年砂降り被害田畑書き上げ
30	御殿場市	深沢村	二尺五、六寸	75	78	軒際は三、四寸溜まる。	79	近世小田原ものがたり	
31	御殿場市	東田中村	二尺	60			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
31	御殿場市	東田中村	二尺五、六寸	75	78		79	近世小田原ものがたり	
32	御殿場市	川島田村	一尺八寸	54			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
32	御殿場市	川島田村	六、七寸許り	18	21		79	近世小田原ものがたり	
33	御殿場市	茱萸沢村	二尺	60			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
34	御殿場市	増田村	三尺一寸	93			27	御殿場市史	宝永六年砂除け及び川ざらい見積り(御殿場市史3)
35	御殿場市	山尾田村	三尺五寸	105			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
35	御殿場市	山尾田村	五尺	150			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
36	御殿場市	清後村	三尺一寸	93			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
36	御殿場市	清後村	五尺	150			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
37	御殿場市	川柳新田	三尺五寸	105			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
37	御殿場市	川柳新田	四、五寸	12	15		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
38	御殿場市	六日市場村	三尺五寸	105			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
38	御殿場市	六日市場村	五尺	150			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
39	御殿場市	中畑村	四尺五寸	135			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
39	御殿場市	中畑村	七尺	210			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」(下鶴による)
40	御殿場市	上小林村	四尺	120			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
40	御殿場市	上小林村	五尺	150			24	開成町史 通史	
41	御殿場市	塚原村	三尺五寸	105			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
41	御殿場市	塚原村	六寸	18			117	大角留吉	
42	御殿場市	仁杉村	四尺五寸	135			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
42	御殿場市	仁杉村	七尺	210			24	開成町史 通史	
42	御殿場市	仁杉村	七尺	210	210	百姓家軒まで降積り、家の内へ砂押し込み、家二、三軒潰れる。前川という川は、砂四、五尺も埋まり、水少しづつ流れる。	79	近世小田原ものがたり	
43	御殿場市	芝怒田村	六尺から七	180	210		113	下鶴大輔	
43	御殿場市	芝怒田村	七尺	210			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
44	御殿場市	山の尻村	三尺一寸	93			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
44	御殿場市	山の尻村	五尺	150			50	秦野市史	
45	御殿場市	水士野新田	四尺五寸	135			113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
45	御殿場市	水士野新田	七尺	210		「百姓家屋根ばかり少し見る。ただし小家共ゆへ砂にて埋る」	50	秦野市史 通史3	
46	御殿場市	神山村	二寸	6			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
47	御殿場市	沼田村	六寸	18			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
47	御殿場市	沼田村	四寸	12			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
48	御殿場市	駒門新田	三寸	9			113	下鶴大輔	
49	御殿場市	駒門村	五寸	15			113	下鶴大輔	
49	御殿場市	駒門村	三寸	9			24	開成町史 通史	
50	御殿場市	中清水村	五寸	15			27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
50	御殿場市	中清水村	三寸	9			113	下鶴大輔	
51	御殿場市	中山村	三寸	9			113	下鶴大輔	
51	御殿場市	中山村	三寸	9			27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」

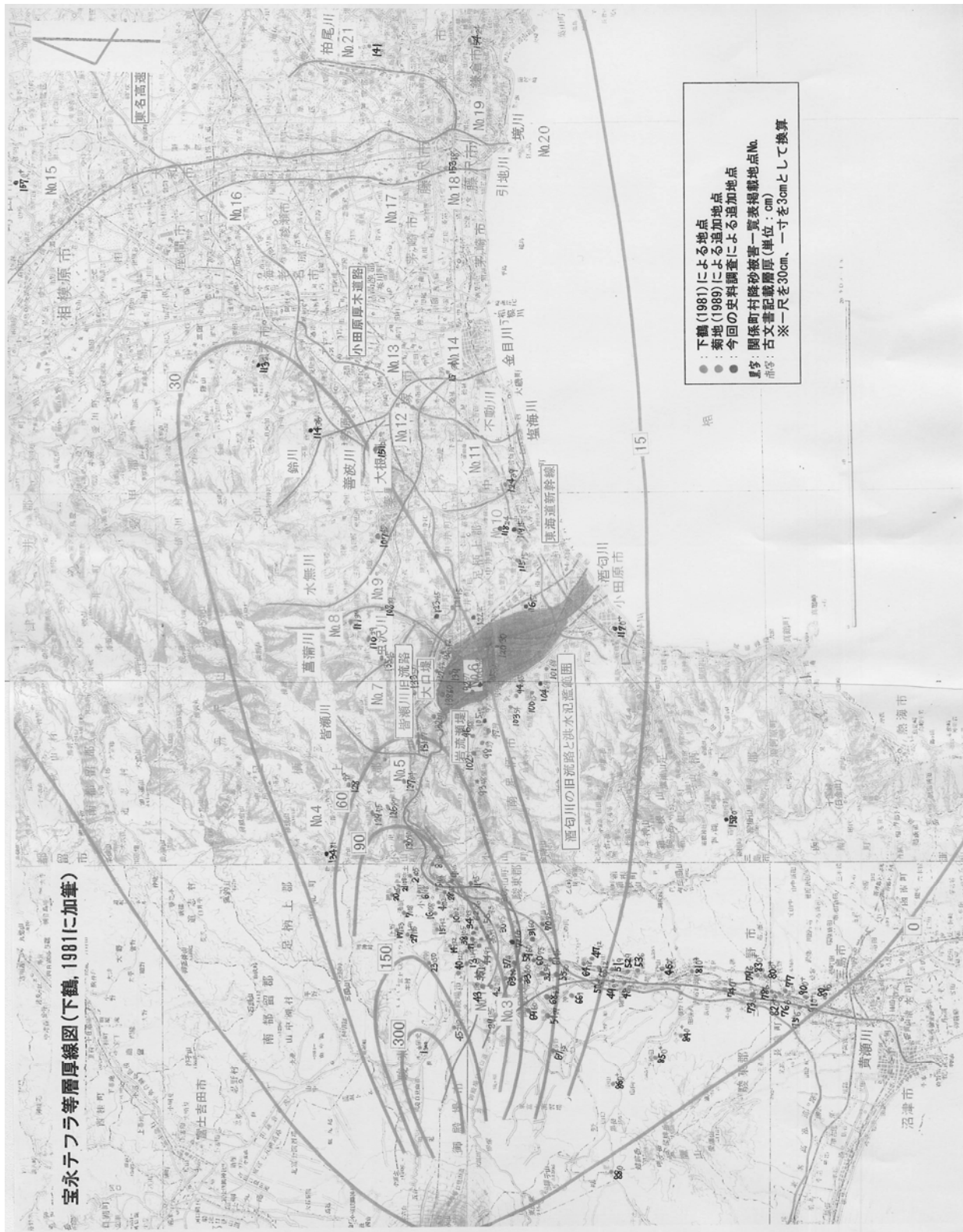
52	御殿場市	二子村	六寸	18		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
52	御殿場市	二子村	三寸	9		79	近世小田原ものがたり	
52	御殿場市	二子村	四寸	12		24	開成町史 通史	
53	御殿場市	大坂村	五寸	15		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
53	御殿場市	大坂村	二寸許り	6		79	近世小田原ものがたり	
54	御殿場市	板妻村	九寸	27		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
54	御殿場市	板妻村	四五寸	12	15	24	開成町史 通史	
55	御殿場市	杉名沢村	一尺	30		113	下鶴大輔	
55	御殿場市	杉名沢村	二尺	60		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
56	御殿場市	大堰村	三尺一寸	93		27	御殿場市史	宝永五年砂退け見積り
56	御殿場市	大堰村	五尺	150		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
57	御殿場市	萩原村	六七寸	18	21	79	近世小田原ものがたり	
58	御殿場市	小倉野新田	二尺五寸	75		113	下鶴大輔	
59	御殿場市	二枚橋村	二尺	60		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
60	御殿場市	西田中村	二尺五寸	75		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
60	御殿場市	西田中村	二尺	60		24	開成町史 通史	
61	御殿場市	新橋村	一尺五寸	45		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
61	御殿場市	新橋村	一尺八九寸許り	54	57	79	近世小田原ものがたり	
62	御殿場市	中丸村	三尺二寸	96		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
62	御殿場市	中丸村	五尺	150		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
63	御殿場市	北久原村	三尺	90		50	秦野市史 通史3 近世	
64	御殿場市	蘆新田	一尺	30		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
64	御殿場市	蘆新田	六七寸許り	18	21	79	近世小田原ものがたり	
65	御殿場市	萩無村	六寸	18		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
65	御殿場市	萩蕪村	四五寸	12	15	79	近世小田原ものがたり	
66	御殿場市	神場村	三四寸	9		113	下鶴大輔	
66	御殿場市	神場村	六寸	18		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
66	御殿場市	神場村	三四寸	9	12	27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
67	御殿場市	印野村	二尺	60		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
67	御殿場市	印野村	五六寸	15	18	24	開成町史 通史	
68	御殿場市	程沢新田	一尺五寸	45		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
69	御殿場市	永塚村	二尺	60		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
69	御殿場市	永塚村	三四寸	9	12	27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」
70	御殿場市	東山新田	二尺五寸	75		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
70	御殿場市	東山新田	二尺五六寸	75	78	79	近世小田原ものがたり	
71	御殿場市	古沢村	三尺六寸	108		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
72	御殿場市	御殿場村	二尺	60		50	秦野市史	
73	裾野市	佐野村	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
73	裾野市	佐野村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり	
74	裾野市	石脇村	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
74	裾野市	石脇村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり	
75	裾野市	水窪村	二寸	6		113	下鶴大輔	
76	裾野市	二ツ家新田	二寸	6		113	下鶴大輔	
77	裾野市	麦塚村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり	
77	裾野市	麦塚村	二寸	6		113	下鶴大輔	
78	裾野市	平松新田	二寸	6		113	下鶴大輔	
79	裾野市	稲荷新田	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
80	裾野市	茶畑村	二寸	6		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-
80	裾野市	茶畑村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり	
81	裾野市	岩波村	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-
81	裾野市	岩波村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり	

82	裾野市	伊豆島田村	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-	
82	裾野市	伊豆島田村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり		
83	裾野市	公文名村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり		
83	裾野市	公文名村	二寸	6		113	下鶴大輔		
84	裾野市	今里村	砂少し	0+		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」	
84	裾野市	今里村	二寸	6		113	下鶴大輔	(御殿場市史(4)p.87-	
85	裾野市	下和田村	二寸	6		113	下鶴大輔		
85	裾野市	下和田村	砂少し	0+		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」	
86	裾野市	須山村	二寸	6		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-	
86	裾野市	須山村	砂降らず	0		113	下鶴大輔		
86	裾野市	須山村	砂少し	0+		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」	
87	裾野市	神山村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり		
88	裾野市	十里木村	砂降らず	0		27	御殿場市史8 p.254	小山町小山・室伏覚家文書「正徳五年駿州駿東郡村々開発高亥積砂寸尺覚」	
89	長泉町	竹原村	二寸	6		113	下鶴大輔		
90	長泉町	上土狩村	二寸	6		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-	
90	長泉町	上土狩村	砂少し	0+		79	近世小田原ものがたり		
91	長泉町	下土狩村	二寸	6		27	御殿場市史	(御殿場市史(4)p.87-	
91	長泉町	下土狩村	砂少し	0+	麦作構なし	79	近世小田原ものがたり		
92	南足柄市	千津島村	一尺九寸	57	村の総反別に対する砂置き場の面積は50%	66	南足柄市史6 通史編	藩への報告書の控えとして明治大学刑事博物館蔵、瀬戸家資料(下鶴による)	
93	南足柄市	矢倉沢村	一尺六寸	48		113	下鶴大輔	矢倉沢村砂御見分帳	
93	南足柄市	矢倉沢村	三、四寸から一尺五寸ほ	9	45	矢倉沢村から小田原あたりまでの箱根山麓の村々がこの値	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(壙下村名主記録)
93	南足柄市	矢倉沢村	一尺六寸	48		66	南足柄市史6 通史編	矢倉沢の田代克巳蔵	
93	南足柄市	矢倉沢村	三尺	90		24	開成町史 通史		
93	南足柄市	矢倉沢村	二尺三寸	69		117	大角留吉		
93	南足柄市	矢倉沢村	三尺	60		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
94	南足柄市	中沼村	一尺五寸~二尺	45	60		113	下鶴大輔	中沼村名主 杉本田造日記
95	南足柄市	大雄村	一尺二三寸	36	39		113	下鶴大輔	
96	南足柄市	弘西寺村	一尺三寸	39		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
96	南足柄市	弘西寺村	一尺六、七寸	48	51		24	開成町史 通史	
97	南足柄市	福泉村	一尺三寸	39		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
97	南足柄市	福泉村	一尺三寸	39		79	近世小田原ものがたり		
98	南足柄市	雨坪村	一尺三寸	39		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
99	南足柄市	関本村	二尺三寸	69		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
99	南足柄市	関本村	一尺二寸	36		66	南足柄市史6 通史編	藩への報告書の控えとして南足柄市史資料編3 69にあるもの	
100	南足柄市	塚原村	五、六寸	15	18		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	
100	南足柄市	塚原村	五、六寸、麦見ゆ	15	18	麦作見ゆる。	79	近世小田原ものがたり	
101	南足柄市	沼田村	二尺三寸	69		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)		
101	南足柄市	沼田村	二尺三寸	69		79	近世小田原ものがたり		
102	南足柄市	狩野一色村	一尺六、七寸	51	54		79	近世小田原ものがたり	
103	南足柄市	狩野村	一尺七寸	54		117	大角留吉		
104	南足柄市	岩原村	二尺三寸	69		24	開成町史 通史		
105	南足柄市	猿山村	一尺五寸より二尺	45	60		66	南足柄市史6 通史編	大地震以来砂降大変覚書(幕末期猿山村名主記録帳写し)
106	南足柄市	壙下村	一尺六寸	48		66	南足柄市史6 通史編	藩への報告書の控えとして南足柄市史資料編2 89にあるもの	

107	秦野市	曾屋村	一尺四五寸	45		「田畑野山一面砂場となり、麦作一切なく、百姓飢えて、到底自力におよばない」	50	秦野市史 通史3 近世	宝永四年十二月 乍恐以書付奉願候」(中村家文書)(下鶴による)	
108	秦野市	菖蒲村	一尺三四寸	39	42			113	下鶴大輔	菖蒲村他三ヶ村砂地開発願
109	秦野市	八沢村	一尺三四寸	39	42			113	下鶴大輔	
110	秦野市	柳川村	一尺三四寸	39	42			113	下鶴大輔	
111	秦野市	三廻部	一尺三四寸	39	42			113	下鶴大輔	
112	厚木市	上落合村	六、七寸	18	21			101	厚木市史 近世 資料編(2) 村落	宝永五年閏正月 富士山噴火砂降り見分につき村方書上帳(下鶴による)
113	厚木市	温水村	七寸	21				24	開成町史 通史	
114	伊勢原市	西富岡村	一尺二寸	36				24	開成町史 通史	
115	小田原市	曾我谷津村	五、六寸	15	18			24	開成町史 通史	
116	小田原市	永塚村	五、六寸	15	18			24	開成町史 通史	
117	小田原市	小田原宿	灰、砂少量	0+				24	開成町史 通史	
118	小田原市	小竹より上	八、九寸より一尺	24	30			24	開成町史 通史	
119	小田原市	小竹より下	五寸より四尺	15	120			24	開成町史 通史	
120	小田原市	曾比村	一尺から二尺	30	60			24	開成町史 通史	
121	大井町		五、六寸	15	18			113	下鶴大輔	
122	大井町	金子村	四、五寸から七、八寸ほど	12	24	金子村から金手村(大井町)から曾我村(小田原市)までがこの値。東海道筋の村々では二、三寸積り、江戸では火山灰と砂をあわせて一寸積もった。	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(壙下村名主記録帳)	
123	大井町	篠窪村	一尺五、六寸	45	48			24	開成町史 通史	砂降り地開発につき宝永六年五月(下鶴に
124	二宮町	中里村	一尺三、四寸	39	42			46	二宮町史 通史編	乍恐書付以奉願上候御事
125	山北町	皆瀬川	二尺五寸から三尺	75	90			113	下鶴大輔	宝永四年十二月 富士山噴火による被害状況書上方申渡覚 覚
126	山北町	湯触村	二尺九寸～三尺	87	90			113	下鶴大輔	宝永四年十二月湯触村富士焼石砂降り見分
127	山北町	都夫良野村	二尺八寸～三尺	84	90			113	下鶴大輔	
128	山北町	神繩村	四、五寸	12	15	神繩村から世附村、中川村、玄倉村がこの値	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(壙下村名主記録	
128	山北町	神繩村	一尺六寸	48				113	下鶴大輔	
128	山北町	神繩村	三尺		90			113	下鶴大輔	
129	山北町	山市場村	二、三尺	60	90	山市場村から川村岸までがこの値(寸の間違いで？他のデータとの照合必要)	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(壙下村名主記録	
129	山北町	山市場村	二尺五寸から三尺	75	90			113	下鶴大輔	
130	山北町	川西村	三尺	90				113	下鶴大輔	
130	山北町	川西村	三尺二寸	96				113	下鶴大輔	
131	山北町	川村山北	二尺五寸位	75		西風にて川村山北通り降り、道によりては両脇にこぼれ砂少々場所もこれあり。当村中を相流れ通り候皆瀬川水源の儀は、四里奥より流れ出で、両側に小沢数多く御座候て、両側は高山にて大雨の節は砂押し流れ出で、川敷おびただしく高く相成り、高さ一丈二尺位堤切れ込み、村中湖水の如く相成り申し候。	79	近世小田原ものがたり	二階堂家伝来旧記書(般若院文書)	
131	山北町	川村山北	一尺九寸から二尺一寸	57	63			113	下鶴大輔	
132	山北町	山北岸村	一尺九寸から二尺一寸	57	63			113	下鶴大輔	
133	山北町	川村向原	一尺九寸から二尺一寸	57	63			113	下鶴大輔	
133	山北町	山北向原	一尺九寸から二尺一寸	57	63			113	下鶴大輔	
134	山北町	世附村	三、四尺より二尺七八寸	81	120	世附村から中川村方面の値	50	秦野市史 通史3 近世	宝永四年丁亥年降砂二付小田原江	
135	松田町	菅沼村	一尺五寸	45				113	下鶴大輔	此度富士山焼候二付石砂降見分帳
136	松田町	松田惣領村	二尺	60				24	開成町史 通史編	
137	松田町	松田村	二尺位	60				79	近世小田原ものがたり	二階堂家伝来旧記書(般若院文書)
137	松田町、秦野市の一	松田村	二尺四、五寸ほど	42	45	松田村から東山家。これから秦野・大山・中部にかけては段々浅くなる。	66	南足柄市史6 通史編	先年大口大破旧記之写(壙下村名主記録	
138	開成町	金井島村	二尺	60				24	開成町史 通史	
139	開成町	吉田島村	一尺二、三寸	36	39			24	開成町史 通史	

140	戸塚区	新橋村	七寸	21		23日の朝8時頃から鳴動がして戸障子などがガタガタと鳴り、そのうちに火打石ほどの大きさの色白の転岩が降った。西東より雲が広がっては稲光りのように光り、連日荒砂、小砂が降り続いて7寸ほど積り、毎日家の中になければならなかった。	56	藤沢市史 第五卷 通史編	
140	戸塚区	新橋村	七寸	21			40	戸塚区史	正徳四年六月観音寺当寺記(新橋町観音寺文書)
141	戸塚区	下倉田村		-		柏尾川が降灰で埋まり、以後水行が悪くなった。	40	戸塚区史	下倉田村細帳(吉原文書)
142	港南区	関村	六寸から一尺八寸	18	54		113	下鶴大輔	
143	港南区	日野村	六、七寸	18	21		113	下鶴大輔	宝永砂降一件文書
144	港南区	勝田村					113	下鶴大輔	都築郡勝田村池淺御覚請願書
145	港南区	最戸村					3	神奈川県史 三、p.211,96	宝永五年 閏一月 武州本牧領最戸村砂降見分諸事書上
146	中区	久良岐郡根岸村	七、八寸より一、二尺	21	60		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	
146	中区	根岸村	七、八寸	21	24		40	戸塚区史	
147	横浜市	久良岐郡宮下村	六、七寸	18	21	「二十三日の屋四つ時分(午前10時)より西の方から黒雲が出て、四方闇になり以の外震動して岩砂降り、その後黒砂、七つ時(午後4時)より十二月八日までに深さ六、七寸ほど降積り、小水の魚皆死す。」	69	横浜市史 第1巻	
147	横浜市	市内	七、八寸	21	24		24	開成町史 通史	
147	横浜市内	永田村?最戸村?	七、八寸	23	26		4	神奈川県の歴史(県史シリーズ)	
147	横浜市		七、八寸(所によつては一、二尺)	21	60	午前10時頃から午後4時頃まで震動、雷鳴がし、夜のように暗くなつてははじめは一、四、五分から三、四分(4.5-4cm)ほどの色白の岩石が降ってきたが、四時過ぎ頃からねずみ色の小砂が降ってきた。それが7日間降り続いてその後は4時間から6時間ぐらいつつ断続的に降つては雪のように積もつた。	56	藤沢市史 第五卷 通史編	
148	葉山町	木古庭村	一尺	30			113	下鶴大輔	
149	葉山町	桜山村	二、三寸	3	9	「駿州富士山ノ火石モエ上ガルこと数百丈其砂武州相州へ積ル、宝永四年十一月廿三日屋二石降り夜ヨリ砂降。十二月八日迄降積り田畑二、三寸余、麦作荒、田方砂除普請仕候」	31	逗子市史 通史編 古代・中世・近世・近現代編	桜山石渡家文書
149	葉山町	桜山村	三寸	9			113	下鶴大輔	
150	逗子市	堀内村	八寸	24			113	下鶴大輔	
151	平塚市	北金目村	七、八寸	21	24		24	開成町史 通史編	宝永五年 閏一月 砂降り後北金目村柄書上覚(下鶴による)
152	平塚市	南原村	一尺	30			113	下鶴大輔	用水堀埋候
153	藤沢市	高座郡羽鳥村	八、九寸より一尺	24	30		3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	
153	藤沢市	羽鳥村	六、七寸、八、九寸	18	27		113	下鶴大輔	宝永四年 十二月 富士山噴火による羽鳥村砂降状況書上 羽鳥村岩砂埋書上覚 下書
153	藤沢市	羽鳥村	七、八寸から一尺	21	30	大庭村(藤沢市)の用水路や悪水路はすべて埋まった。	4	神奈川県の歴史(県史シリーズ)	
153	藤沢市	羽鳥村	八、九寸より一尺	24	30		56	藤沢市史 第五卷 通史編	岩砂埋書上覚(羽鳥村から領主への報告文)
154	鎌倉市	中和田村	八、九寸より二尺	24	60		24	開成町史 通史編	
155	文京区	護国寺	二分~三分				113	下鶴大輔	
156	名古屋		六分~七分				113	下鶴大輔	
157	町田市	野津田	降灰あり	-	-	降灰量は不明だが降灰の記録あり。	30	城山町史 6 通史編近世	

158	箱根町	箱根関所		-	朝初雪、夜に入り黒き砂降り、申の刻(午後4時)富士山焼け、黒煙御番所より見える。火の手も見える。二十四日暮れ六つ半(午後7時)、九つごろ(午前0時)強き地震あり、夜まで間断なく震動、暁夜七つ時(午前4時)震動それより止む。	50	秦野市史 通史3 近世	箱根関所日記書抜
159	城山町		一寸四五分	4	上下川尻村、高座郡、武蔵国多摩郡など十八カ村連名の被害報告の値	30	城山町史 6 通史編近世	
160	千葉県君津市	大井	-	-	「十一月二十三日九つ時岩石ふり、又さる石より動きも、くれ六つにやみ、又それより、くろすな二十四日の夜の九つ時分までふり、其の内かみなり、震動も、同二十六日迄致候、又其内地震も入候」	26	君津市史 史料 集Ⅱ 近世Ⅱ	
161	東京都	江戸	白・黒灰	-		24	開成町史 通史	
	秦野市	大住郡曾屋村一帯		-	「石砂一尺四、五寸降積り、田畑野山一面砂場となり、麦作一切なく、百姓飢えて、到底自力に及ばない」	3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	横野区有文書
	厚木市	愛甲郡恩名村	-	-	田の反別51町6反4畝あまりの内、11町7反7畝が「砂置場潰地」となってしまい、耕作が不可能となった。	3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	
	大和市	福田村			市域西部の上・下草柳村と福田村を還流する引地川は、水源に近い上流において自浄力を失い、砂水の溜まりとなり、流域水田に干害をもたらし、雨が降れば泥流となって砂を埋めた。	67	大和市史 2通史 編近世	
	清川村	宮が瀬村	-	-	山間地域であるが、反別四十九町六反余が砂埋まり。	4	神奈川県の歴史 (県史シリーズ)	
	小田原市	成田村	-	-	宝永四年十一月二十三日の朝七つ半時(午前5時)地震、同四つ時分(午前10時)まで地震三度、四つ半時(午前11時)より富士山数度鳴り、…いかづち鳴り渡り、村西方より岩小石ふり積り、そのうち屋八つ半時分(午後3時)まで降り積もる。田畑共一重降り積り申候。	50	秦野市史 通史2 近世	「御用留」小田原市 村山家文書
	小田原市	成田村	-	-	(つづき)この節富士山焼き出る。空かきくもり、いかづち鳴り渡り、富士山焼き出る。日天の光もなく、霧降り申すよう、世間暗み、同二十四日の夜九つ時(午前0時)より砂降り、同二十五日の夜四つ半時(午後11時)まで降り申し候。	50	秦野市史 通史3 近世	「御用留」小田原市 村山家文書
	山北町	皆瀬川		-	皆瀬川では「大雨の節は、砂押流出川敷おびただしく高く相成り、高さ1丈2尺位、堤切込村中湖水のごとく相成」	3	神奈川県史 通史編3 近世(2)	二階堂家伝来旧記書 (般若院文書)
	神奈川県全域	(全体)	-	-	噴火の際降灰の害を受けた地域は、相州梅沢辺りより保土ヶ谷町辺まで、横幅三、四里の間が甚だしい。	69	横浜市史 第1巻	永田村服部文書

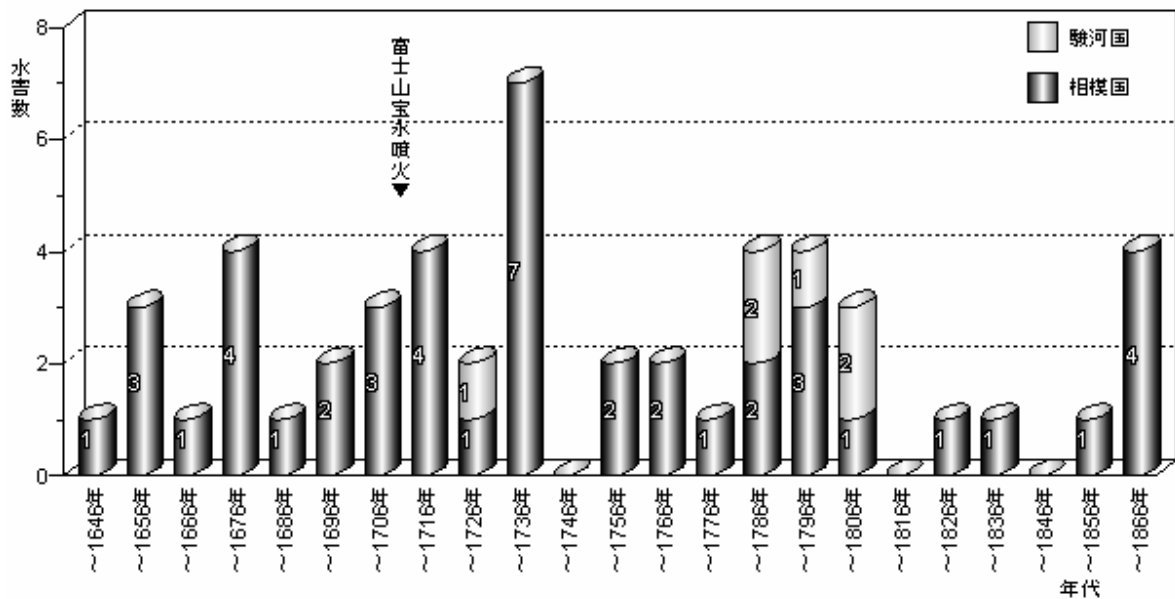


付図 宝永テフラの等層厚線図

3 江戸期における酒匂川水系（相模国）水害年表・グラフ

年号	水害の記録	主な出典
正保2年 (1645)	7月18日 大水で今井村(小田原市)の堤が切れる	稲葉日記
慶安4年 (1651)	6月19日 豪雨で酒匂川出水、川除け普請箇所が破損する。御厨(静岡県駿東郡)の山崩れで生き埋め被害者あり	『小田原市史』史料編近世 I No.28
承応2年 (1653)	6月7日 大雨にて酒匂川洪水、栢山村・今井村(小田原市)で堤が決壊する	稲葉日記
明暦元年 (1655)	9月2～3日 大風雨のため矢倉沢村(南足柄市)で洪水となる	『神奈川県史』資料編近世4No.66
万治3年 (1660)	8月20日 大水により岩流瀬の土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
寛文10年 (1670)	6月3日 大雨により大口土手が決壊する	『南足柄市史』3No.93
寛文11年 (1671)	8月27日 大雨により川村岸(山北町)の岩流瀬川除け堤が決壊する	『南足柄市史』3No.93
延宝元年 (1673)	8月9～10日 大風雨により小田原城下侍屋敷7軒・町家445軒・領内民家784軒が倒壊し、河川の決壊や街道並木の吹き倒れが相つぐ	『神奈川県史』資料編近世4No.379～381
延宝4年 (1676)	8月12日 大風雨、倒壊家屋城下で13軒・領内村で289軒、川除け堤も数か所で決壊する	『神奈川県史』資料編近世4No.385～387
貞享3年 (1686)	6月4日 洪水で十文字水門が大破する	『大井町史』資料編近世(2)No.162
元禄元年 (1688)	7月20日 大雨により岩流瀬・大口両土手が決壊する	
元禄8年 (1695)	7月15日 大雨により岩流瀬土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
元禄13年 (1700)	6月 大雨にて岩流瀬土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
宝永元年 (1704)	7月 洪水で岩流瀬と斑目村(南足柄市)の土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.47
宝永2年 (1705)	6月30日 大雨により岩流瀬土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
宝永5年 (1708)	6月22日 大雨により大口・岩流瀬土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
宝永6年 (1709)	6月 大雨により大口土手が決壊する	『南足柄市史』3No.93
正徳元年 (1711)	7月29日 大雨により大口土手が決壊、酒匂川の流路が西にずれる 川音川の和田堤が決壊、水下6か村が被害を受ける	『神奈川県史』資料編近世5No.259 『大井町史』資料編近世(2)No.186
正徳2年 (1712)	この年 洪水にて穴部新田が流失、住民は穴部村(小田原市)に仮住居する 洪水にて小台村(小田原市)蓮乗寺が流失する	『相模国風土記稿』
享保11年 (1726)	7月 大水により吉田島村(開成町)と曾比村(小田原市)境の土手が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
享保13年 (1728)	8月18日 出水により金子村(大井町)の川音川堤が決壊する	
享保16年 (1731)	5月16日 大雨で酒匂川東通り金手村(大井町)～鬼柳村(小田原市)間の土手が決壊する	『小田原市史』史料編近世 I No.218
享保16年 (1731)	6月30日 大雨で酒匂川東通りが再び決壊する	『小田原市史』史料編近世 I No.218
享保16年 (1731)	8月12日 大雨により酒匂川東通りで出水する	『小田原市史』史料編近世 I No.218
享保16年 (1731)	8月27日 大風雨で酒匂川東通りで出水する	『小田原市史』史料編近世 I No.218
享保17年 (1732)	6月5日 大雨により復旧ならない酒匂川が再び氾濫する	『大井町史』資料編近世(2)No.7
享保19年 (1734)	8月7日 大雨により夜中に岩流瀬・大口堤・下吉田島堤・川音堤・川東堤・今井村堤が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.259
寛延元年 (1748)	6月5日 洪水で川音川東堤町屋村分が決壊する	『大井町史』資料編近世(2)No.186
寛延3年 (1750)	4月13日 洪水にて川音川東堤・十文字堰が決壊し、酒匂川通り東6か村が被害を受ける	『大井町史』資料編近世(2)No.186
宝暦7年 (1757)	5月1～5日 大雨で酒匂川の大口径堤が決壊する	『開成町史』資料編近世(1)No.219
宝暦8年 (1758)	8月13～14日 出水にて酒匂川・川音川の堤が決壊する	『大井町史』資料編近世(2)No.189
安永8年 (1779)	7月23日 洪水で根又堰が埋まり、斑目村(南足柄市)と金井島村(開成町)が藩役人の見分を願い出る	『南足柄市史』2No.152、『開成町史』資料編近世(1)No.223
天明6年 (1786)	7月18日 大雨で酒匂川東土手・今井村(小田原市)土手が決壊、大洪水となる	『小田原市史』史料編近世ⅢNo.58

年号	水害の記録	主な出典
寛政3年 (1791)	8月6日 大雨により酒匂川の岩流瀬・大口堤が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No. 206・259
寛政5年 (1793)	7月2～3日 大雨により十文字堰の堤が決壊する	『小田原市史』史料編近世 I No. 231
寛政5年 (1793)	7月25～26日 大雨で川音川の普請箇所が流失する	『小田原市史』史料編近世 I No. 231
享和2年 (1802)	6月30日 大雨が続き洪水により岩流瀬・大口堤が決壊し、川東方面も流失する	『神奈川県史』資料編近世5No. 206・259
文政6年 (1823)	6月19日 大雨により酒匂川が洪水となる	『小田原市史』史料編近世 I No. 247
天保7年 (1836)	この年 洪水により酒匂川・川音川筋の堤が決壊、翌年公儀普請で修復される	『神奈川県史』資料編近世4No.2
安政2年 (1855)	6月4日 大雨により酒匂川・狩川で出水する	『御殿場市史』1No.2-19
安政4年 (1857)	閏5月18日 大風雨で大口文命堤が決壊、狩川も氾濫する	『南足柄市史』2No.162、『同』3No. 105
安政4年 (1857)	6月18日 皆瀬川村(山北町)が大雨の被害を受ける	『山北町史』史料編近世No.445・455
安政6年 (1859)	7月25日 大雨で酒匂川・狩川が洪水、塔之沢(箱根町)の橋向は出水で流失する	『神奈川県史』資料編近世5No. 112・242
元治元年 (1864)	5月24日 大雨により酒匂川大口の二ノ堰代が決壊する	『神奈川県史』資料編近世5No.248



付図 年代別酒匂川水系水害回数